

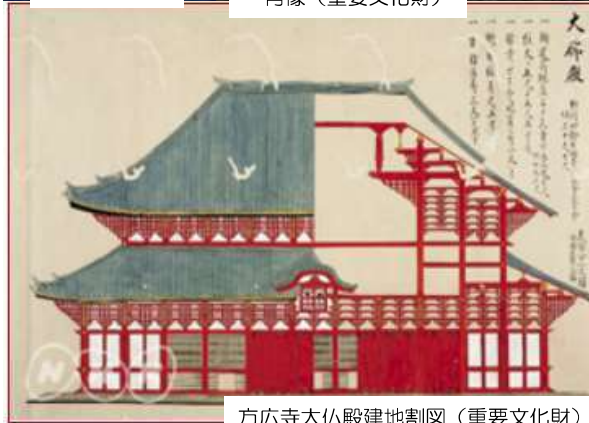
第11回名古屋工業会大阪支部交流サロンの開催 (Web講演)

大阪支部の第11回交流サロンは、8月27日15時～17時に開催され、参加者61名がWeb会議で講演と交流を楽しみました。A46の岡崎格郎さんが、世界遺産を作った徳川家康の御大工「中井大和守正清」について講演され、50年前と現在の研究、資料の公開・活用状況を話された。岡崎さんは、建築学科の「歴史意匠研究室」でお城博士と称された城戸久、内藤昌先生から中井家の指導を受け、現在も探求し続けています。正清や一族郎党の関わった建物の多くが、世界遺産に登録され、作成した資料は重要文化財として保存活用されている。講演のあとの交流会では、ベトナムから参加の森英範さんなど多くの参加者から質疑や意見が出て、これから家伝の古文書名に取り組みなどの発言もあり、活発な会員交流会となりました。



岡崎格郎さん

中井大和守正清
肖像 (重要文化財)



方広寺大仏殿建地割図 (重要文化財)

1.中井大和守正清 (1565～1619) 活躍の時代背景を掘り起こして伝承の実態を推論することを楽しみましょう。

①中井家の先祖は正清の祖父巨勢正範で元々大和国三輪神社 (大神神社) の巨勢 (こせ) 氏と称する神職だった。
・戦国時代、松永秀久傘下の和万歳城主に仕えていた巨勢正範が1538年戦死し、その子の孫太夫正吉が法隆寺西里村の法隆寺工匠中村伊太夫のもとで養われ、法隆寺大工になり中井氏を名乗る。
(豊臣家の大坂城天守の大工説もある)

②中井正清が畿内の大工を傘下に
・関ヶ原の戦後、1602年の伏見城 本丸作事に関わり同年、二条城 (1606) 造営で3人の徳川家御大工の一人になる。
→1606年従五位下大和守に任官以降、徳川家御大工は正清に一元化される。
・正清は組織した法隆寺大工を中核とする棟梁衆を配下に畿内 (大和・山城・河内・和泉・摂津)・近江6カ国の大工組や大鋸組を配下とし、その動員力より多くの建築工事に携わる。

③豊臣秀長の下で多くの城づくりに従った藤堂高虎、小堀・中井家はやがて徳川家康の登用される。
・藤堂高虎 (1556～1639) 黒田忠高、加藤清正と並び築城3名人と称される。浅井家、豊臣秀長、豊臣秀保、徳川家に仕え、大和郡山・京都聚楽第・伏見・宇和島・今治・江戸・津・伊賀上野・二条・大阪・淀城等の土木工事に関与し、重塔式天守を考案したと言われる。
・小堀遠江守政一 (1579-1647)
浅井氏に仕える小堀正次の長男として誕生。浅井家、豊臣秀長・秀吉、徳川家に仕えた父に従う。伏見奉行を務めるとともに作事奉行、大名茶人として活躍した。
・駿府城天守で中井正清とともに作事奉行に起用され、以後名古屋城天守などをコンビで担当する。

④平政隆 (1669～1683) が9冊の技術書「愚子見記」 (元西岡常一、現在法隆寺所有) を著す。
・四天王寺から法隆寺に宮大工技術が受継がれるなか、中井家所属の工匠平政隆は吉凶・尺度・武具・調度並びに建物の形状・寸法、建築費の積算、工事仕様を知る貴重な資料を残した。

2.中井家の関わった建物他

- ・大坂城 (父正吉?、子正侶)
- ・伏見城 (1602) →福山城伏見櫓 (重文)
- ・二条城 (1603)
- ・法隆寺大修理 (1606)
- ・駿府城 (1608)
- ・名古屋城 (1612)
- ・江戸城 (元和度、寛永度)
- ・京都御所 (慶長度他8回) →仁和寺金堂 (国宝)
- ・方広寺大仏殿 (1614)
- ・久能残東照宮 (1616)
- ・日光東照宮 (1617)
- ・知恩院三門 (1619)
- *中井家は江戸時代を通じて関西の主要な寺社の建設に関与し、その多くが世界遺産に登録された。



内藤昌
(1932-2012)

城戸久
(1908-1979)

藤岡通夫
(1908-1988)

3.徳川8代将軍吉宗 (1684-1751) の生母お紋の方 (由利・おゆり、浄円院) の出自は中井家の親族・巨勢 (こせ) 家です。

・吉宗の生母お紋の方 (1656-1726) は、中井正清の父巨勢正吉の弟正利の3代目巨勢利清 (1630～1672) を父に持つ。お紋は紀伊藩主徳川光貞の側室となって吉宗を生む。正利およびその子利次は中井家 (正吉・正清・正侶) とともに建築従事。(利次は正侶の後見役) 利次の子・孫の利盛・利清 (お紋の方父) は建築から離れ、京都で浪居した。利清の時に名前を巨勢に戻した。一族の墓所は中井家と同じ京都・長香寺他

4.中井家の史料の動向について

①岡崎さんの卒論時代

- ・日比谷図書館、宮内庁書陵部、京都大学付属図書館、京都府立資料館 (現在は京都歴史館)、中井家、長香寺などを訪問して史料を拝見、撮影し解説活用

②最近

- ・中井家伝来資料は、重要文化財になり大阪住まいのミュージアムに保管された。
- ・デジタル化、CAD活用が進んでネット検索で公開される内容が充実し始めた。
- ・魅力的なブログ「なつう」により、わかりやすい報道番組やイベントが増えている。
「世界遺産を作った大工棟梁-中井大和守の仕事 展」解説本 谷直樹著



長香寺 (京都市下京)

5.恩師の主な (手に入りやすい) 著作

①城戸久 (1908-1979)

- ・城と民家 (毎日新聞社)、私家版～中井家系譜の研究 (絶版)
*東工大の藤岡通夫 (1908-1988) と双璧を成す。

②内藤昌 (1932-2012)

- ・復元安土城 (講談社)
- ・城の日本史 (角川書店)、愚子見記の研究 (井上書院)
- ・近世大工の美学・環境倫理としての日本古典建築学 (講談社)

